

令和5年度 いちご研究所 開発研究室 試験計画概要

中課題	小課題	細目課題	研究内容	新継年次別
いちごの新品種育成(促成用品種の育成) (昭44～)	促成および周年生産用品種の育成	促成および周年生産用品種の育成	11月下旬から収穫が可能で、果実が大きく、食味良く、輸送性・日持ちがよく、耐病性・多収品種およびそれらに加え四季成り性を有し周年生産可能な品種を育成する。	継 続 昭44～
		いちごの主要病害に対する耐病性系統の作出	イチゴ萎黄病・炭疽病などの接種検定により、耐病性系統を選抜する。	継 続 平20～
		DNAマーカーによるイチゴ萎黄病耐病性系統の選抜	開発したイチゴ萎黄病耐病性連鎖マーカーを用いて、耐病性系統の選抜を行う。	継 続 平25～
		DNAマーカーによる四季成り性系統の選抜	開発したいちご四季成り性判別マーカーを用いて、四季成り性系統の選抜を行う。	継 続 平31～
いちご種子繁殖型新品種の育成および普及に必要な栽培技術の確立	種子繁殖型新品種の育成		自殖固定系統を育成するため、F1系統の特性検定を実施する。有望系統は、現地適応性・経営評価を実施する。	新 規 令4～8
	種子、苗供給体制の構築		種子繁殖型品種の普及のため、発芽率の向上や適した育苗管理技術を検討する。	
いちごの新品種育成(業務・加工用品種の育成) (平20～)	業務・加工用品種の育成	—	業務用、加工用に適した品種を育成するため、交配及び選抜を行いニーズへの適合性を検討する。	継 続 平20～
いちご新品種「とちあいか(栃木i37号)」の栽培技術の確立 (平31～3)	品種特性の解明	—	栃木i37号の花成や果実の成熟および肥培管理が生育および品質に及ぼす影響を解明する。	継 続 平31～令6
	安定多収生産技術の確立	—	栃木i37号の品種特性を生かした、多収で高品質生産が可能な栽培管理技術を確立する。	
新時代に対応した革新的いちご生産技術の開発 (令3～7)	水熱源ヒートポンプを利用した効率的なクラウン温度制御技術の開発	—	いちご栽培におけるGHG排出量の削減と温暖化に対応した安定生産技術の開発のため、水熱源ヒートポンプを利用した効率的なクラウン温度制御技術の開発を行う。	継 続 令3～7
	太陽光発電及び蓄電池利用に向けた実用性の検証	—	再生可能エネルギーのいちご栽培への利用技術の開発を行うため、太陽光発電と蓄電池による電力供給によりパイプハウスの環境制御機器の稼働実証を行う。	継 続 令3～5
	新しい環境制御のための基礎データ収集とシステムの開発	—	いちごのパイプハウス栽培における新しい環境制御技術の確立のため、光合成測定チャンバーやその他の基礎データの収集とシステムの開発を行う。	継 続 令3～6
園芸作物の優良品種選定 (昭38～)	いちご系統評価試験	—	農研機構 九州沖縄農業研究センター育成のいちご系統の北関東における適応性を検討する。	継 続 昭38～
	導入品種の特性調査	—	他県または民間で育成された品種の特性を調査する。	継 続 昭44～
生育調整剤・除草剤の適応性試験 (昭38～)	野菜の生育調整剤の選抜利用試験	—	日本植物調節剤研究協会(日植調)の設計による。	継 続 昭42～